環境理工学部　安全の手引（第 3 版第 3 刷）修正箇所一覧

| 章 | 頁 | 修正前 | 修正後 |
|---|---|---|---|
| 目次 | | 6.3.3　土質試験法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　55<br><br>8.4.1　高エネルギー装置　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　76<br>8.4.2　X 線回折装置、蛍光 X 線装置　・・・・・・・・　77<br>8.4.3　高周波スパッタリング装置　・・・・・・・・・・　77<br>8.4.4　超伝導 NMR 装置　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　77 | 6.3.3　土質試験法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　56<br><br>8.4.1　蒸留・濃縮・分留操作　・・・・・・・・・・・・・　76<br>8.4.2　高エネルギー装置　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　77<br>8.4.3　X 線回折装置、蛍光 X 線装置　・・・・・・・・　77<br>8.4.4　高周波スパッタリング装置　・・・・・・・・・・　77<br>8.4.5　超伝導 NMR 装置　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　78<br>（8 章の 5 節以降は頁番号 1 繰下げ、9 章以降は同 2 繰下げ。） |
| 巻頭資料 | 資 7 | | （総研棟消火栓操作；操作説明内容を改善） |
| 巻頭資料 | 資 8 | | （AED；設置場所等の更新） |
| 巻頭資料 | 資 9 | | （安否確認シート；様式の微修正） |
| 1 章 | 2 | ・保護メガネ（ゴーグル）、防護マスク、ゴム（皮）手袋、安全靴、ヘルメットなどの保護具は、作業に見合ったものを正しく着用する。 | ・白衣や作業服は防護服である。腕まくりをして肌が露出した前腕に、薬品を浴びたり、熱傷・凍傷を負ったりする事故事例は多いので、夏季でも腕まくりをしないこと。また、素材は作業内容を考慮して選定すること。<br>・保護メガネ・ゴーグル、保護マスク（防じん・防毒）、保護手袋（耐薬品・耐熱・切創防止など）、安全靴、ヘルメットなどの保護具は、作業に見合ったものを正しく着用する。 |
| 2 章 | 8 | | （図 2-4　避難場所図；AED 設置場所を更新） |
| 2 章 | 24<br>25 | （3）近隣の医療機関<br>○整形外科<br>・・・・・・<br>・・・・・・ | ※公的機関の大学が、一部の医療機関のみ掲載することは好ましくないので、すべて削除。これに伴い、図 2-14 も救急指定病院を示す図として更新。 |

| 章 | 頁 | 修正前 | 修正後 |
|---|---|---|---|
| 3 章 | 30 | （4）ガスボンベの保管に関すること<br>・強い揺れでも転倒しないよう、＿＿＿＿＿＿ボンベスタンドやクランプ等により確実に固定する。 | （4）ガスボンベの取り扱いに関すること<br>・強い揺れでも転倒しないよう、床などに固定されたボンベスタンドに上下２本の鎖で確実に固定する。 |
| 3 章 | 31 | 2）実験盤（動力盤＿＿＿＿）に関する事項<br>実験盤（動力盤）への機器接続に関しては・・・<br><br>・使用する電源が 100V 単相、200V 単相、200V 三相のいずれであるかを確認する。 | 2）分電盤（動力盤・電灯盤）に関する事項<br>分電盤への機器接続に関しては・・・<br><br>・使用する電源が単相 100V、単相 200V、三相 200V のいずれであるかを確認する。 |
| 6 章 | 54 | | （ページ区切り；(6) 後片付け　を次ページ頭へ） |
| 6 章 | 55 | ・・・動きやすい服装＿＿＿を準備する・・・<br>・・・トランシット＿＿＿＿＿＿・・・ | ・・・動きやすい服装・靴を準備する・・・<br>・・・トランシット（セオドライト）・・・<br><br>（ページ区切り；6.3.3　土質試験法　を次ページ頭へ） |
| 6 章 | 56 | ・・・サンダル、スカート、＿＿＿＿白衣の着用・・・ | ・・・サンダル、スカート、短パン、白衣の着用・・・ |
| 6 章 | 57 | ・・・服装を選ぶこと。＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ | ・・・服装を選ぶこと。なお、サンダルの着用は禁止する。 |
| 6 章 | 58<br>59 | ２）試薬の使用<br>③試薬使用量を必ず試薬管理システムに記録すること。<br>・・・・・<br>⑧新しい試薬を開封する場合は、試薬ビンに「年月日、氏名」を記入すること。<br>・・・・・<br>＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

| 章 | 頁 | 修正前 | 修正後 |
|---|---|---|---|
| 8 章 | 70 | ・保護眼鏡や白衣などを着用し、実験に適した服装をすること。<br>特に冬期は、・・・ | ・保護眼鏡や白衣などを着用し、実験に適した服装をすること。<br>また、火気を取り扱う場合は、白衣などの素材が綿 100%のものを着用すること。特に冬期は、・・・ |
| 8 章 | 76 | 8.4.1　高エネルギー装置 | 8.4.1　蒸留・濃縮・分留操作<br>水冷却器の使用時の事故が多いので、火災や漏水を防ぐために細心の注意を払わなければならない。<br>・水流の停止は火災の原因となるので、通水 5～10 分後に必ず水が所定の流量で流れていることを確認すること。<br>・無人運転中の断水による加熱を防ぐために、圧力型断水リレーを用いて加熱装置の電源が切れるようにすること。<br>・ゴム管を利用している場合、夜間や休日の水圧上昇のためにゴム管が抜けたり、先が踊って流しなどから飛び出したりすることがある。必ず、ホースバンドや締め具を用いて完全に固定すること。流しなどのドレン側も飛び出さないように固定すること。また、ゴム管は劣化するので、使用前に必ずひびの有無を確認し、ひびがある場合は交換すること。<br>8.4.2　高エネルギー装置<br>（以下、8.4 節の項番号繰下げ。） |
| 9 章 | 91 | 表 9-5　下水道排除基準<br>・ポリ塩化ビフエニール（PCB）<br>・1、1 - ジクロロエテレン<br>・シマジン　nig/ℓ<br>・チオペンカルブ | 表 9-5　下水道排除基準<br>・ポリ塩化ビフェニール（PCB）<br>・1、1 - ジクロロエチレン<br>・シマジン　mg/ℓ<br>・チオベンカルブ |
| 奥付 | | 平成 25 年 2 月　　第 3 版第 2 刷発行 | 平成 26 年 2 月　　第 3 版第 3 刷発行 |